

校内研修計画

山梨市立後屋敷小学校

1 研究主題 思考力・判断力・表現力の育成 ～言語活動の充実をめざして～

2 主題設定の理由

小学校における現行の学習指導要領の全面実施から数年が経ち、既に各教科において言語活動が取り組まれているところである。本校でも、言語活動に取り組むこと自体が目的ではなく、「言語活動は、あくまでも各教科等の目標を達成するために、最も効果的で意図的、計画的に設定された学習活動の具体的な手だてである」と再確認をして研究を進めてきている。

本校の児童の実態として、課題解決の見通しを持って解決方法を自ら考えたり、自分の考えや感想を明確に記述することや、筋道を立てて考え表現したりすることなどに課題がある。また、一学級が約 40 名という多集団の学級が多いことや、一斉指導の中で個別の支援を必要とする児童が複数名いること、多様な家庭環境等、学習基盤にも課題を抱えている。それらのことから、知識を活用する力を育成することと合わせ、基礎的・基本的な知識・技能を定着させることも重要となっている。そこで、「学びがいのある魅力的な学習課題」「毎時間のゴールを意識した、児童側の視点に立ったねらいの明確化」「ねらいとまとめや振り返りの対応性」「板書計画とノート指導の一体化」などを意識してなにより毎時間の授業づくりを大事に考え行ってきた。授業づくりにおいては、まず児童の実態や教師の願いなどを踏まえ、「ねらい」やその単元や時間の中で「どのような力を身につけさせたいか」という「育てたい力」を明確にすることが挙げられる。それから、「話す」「聞く」「書く」「読む」の4つの活動領域を選択すること。さらには、活動に適した「学習形態」を関連づけることが大事であると考え。しかしながら、昨年度までの研究実践の中で、これらがうまくつなげていかなかったり、ポイントがしぼりきれなかったりする部分もみられた。また、「授業の基本は学級経営である」とよく言われる。互いの存在を認め合い、助け合うような仲がよい学級集団こそが、子どもたちの思考力や表現力などを育む基盤となる。山梨市学力向上の着眼点である、「活用学習」や「学級力の向上」も加味しながら研究を進めていきたい。

どれも、短期間で育成されるものではないので、長期的な視野をもち、全教師が同じ歩調で「チーム後屋敷」として継続して取り組んでいくことが、必須であると考え。これらのことから今年度も、本研究主題を継続していくこととした。

3 研究の目的

児童の学習意欲を高めながら、各教科の特性に応じた言語活動を充実することにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、それらを活用した「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。

4 研究内容について

1) 授業研究

○授業研究による検証。一人一実践を公開し、授業改善と授業力の向上を図る。

○児童の実態分析と指導法の改善

山梨県学力把握調査（3,5年）、全国学力学習状況調査（6年）やQU（3～6年）の結果分析から、本校児童の実態把握をし、授業づくりの視点や指導法の共通理解を図る。

2) 言語活動の充実・言語環境の整備

○「言語活動ハンドブック」「子どもたちに豊かな言語環境を」リーフレットの読み合わせをしたり

しながら，理論研究をする。

○掲示コーナーの活用を図る。

児童の学習ノートや自学ノートの掲示をして意識を高め，語彙量や質の向上をめざす。

3) 意欲的に学ぶ学級集団づくり

○山梨市「学級力向上」プロジェクト（教育課程）の取り組みや Q-U などを活用しての実態把握により，児童の課題を的確につかみながら，学級集団づくりに生かしていく。

4) 学びの基礎となる学習環境づくり

○発達段階に応じたノート指導を系統立てる。

○家庭学習の充実をめざして家庭への啓発を図りながら，学習習慣の定着を図る。

5 研究方法について

・[低学年部会][高学年部会]の2ブロックを基本にして，実践的に研究を進める。

ブロックごと1本の授業研究をもつ。

・部会研究の内容を交流し合い，共通理解を持つ。

・一人一実践の取り組みとして，全学級の授業を公開し合う。

6 研究の予定

月	日	曜	回	主な内容	
4	13	水	第1回	研究の方向性について	全体
	20	水	第2回	校内研究の全体計画について	全体
5	11	水	第3回	主題に関わった研究・ブロック研究	全体・ブロック
	25	水	第4回	各ブロックの研究	ブロック
6	8	水	第5回	主題に関わった研究	全体
	22	水	第6回	学級力ミーティングにむけて	個人
	29	水	第7回	各ブロックの研究	ブロック
7	6	水	第8回	各ブロックの研究	ブロック
8	10	水	第9回	教育課程還流報告	全体
	17	水	第10回	夏季研修	全体
9	7	水	第11回	各ブロックの研究	ブロック
	14	水	第12回	各ブロックの研究	ブロック
10	5	水	第13回	授業案全体検討①	全体
	19	水	第14回	*研究授業①	全体
	26	水	第15回	授業案全体検討②	全体
11	2	水	第16回	各ブロックの研究	全体
	9	水	第17回	*研究授業②	全体
1	25	水	第18回	一人一実践の全体報告，紀要作成に向けて	全体
2	1	水	第19回	研究のまとめ	全体
	22	水	第20回	来年度の方向性について	全体
3	1	水	第21回	研究紀要作成	全体

(廣瀬 明子)

